

TRAVEL JOURNAL

Japan's No.1 Travel & Tourism Business Magazine

観光立国を支えるすべての人々に向けて

2014
12/1

旅のテレビ通販 の可能性

先行する
韓国に学ぶ

■ 報告

クルーズ船への
到着旅行の不能に基づく
パック旅行契約の解約

高橋弘 (広島大学学長特命補佐・特任教授)

■ 誌上セミナー

今日からできる120%予算達成術
進歩から進化のジャンプへ

■ 好評連載

視座

中村好明
(ドン・キホーテグループ
インバウンドプロジェクト責任者)

発見!海外旅行半世紀

トラベルはトラブルと書く

高齢者大国の前線から

複眼思考で日本を捉える

5分でわかるツーリズム

地方空港の入国審査を強化?

闘う消費者相談室

交渉時に留意すること

ビジネスパーソンの日々雑感

鎌田智子(サクラホステル浅草支配人)

中国レポート



高齢者大国の 前線から

vol.
021

文・篠塚恭一 (SPIあえる倶楽部代表取締役)

複眼思考で 日本を捉える

先 日、台湾の経済産業省にあたる外郭団体の視察を受け入れることになった。

訪日の目的は、毎年東京で行われている国際医療福祉機器展(HCR)への参加で、併せて日本の医療や介護周辺サービスの現状を学びたいという申し出だった。

日本では今からおよそ50年前に国民皆保険体制が確立され、すべての国民が何らかの医療保険に加入しなければならなくなった。これは加入者が保険料を出し合う互助システムで、病気やけがをした場合は、保険から補助を受けて全国どこでも医療サービスが提供されることになっている。

また、2000年には欧州先進国に倣って公的介護保険制度が施行され、それまでは家族が看病として担っていた要介護高齢者のケアを市町村が保険者となって社会化し、地域で担えるシステムをつくりあげてきた。国民が安心して暮らすための保険制度は、日本では当たり前のことと感じられているが、海外にはこうした仕組みのない国のほうが多い。だから、韓国や中国のように高齢化が進んでいる国の関係者は、日本の経験やノウハウに学びたいという声が強い。

HCRは全国社会福祉協議会が主催する展示会で、すでに40年の歴史がある。特に介護保険の施行が決まってからの約20年は、海外からの出展者も増え、高齢者医療や介護サービスに関する出展が充実した。今ではHCRへの参加に合わせたツアーもでき

るほどの人気で、障がいをもつ人や医療、介護、福祉関係者が集う10万人規模のビッグイベントに成長している。

私は人の「移動」に興味があるので、車いすや車両メーカーの展示を見続けてきたが、以前はドイツの輸入車くらいしか見当たらなかった。ところが、最近は日本メーカーの出展が盛んで、今年は好調な業績の後押しもあってのことと思うがブースも活気づいていた。こうしたイベントに続けて参加していると、時とともに対象が変化していることを肌で感じることができる。

以前、日本初として認知症予防と旅行サービスの事例を発表するために、コペンハーゲンで開かれた世界高齢者団体連盟(IFA = International Federation on Ageing's)に参加したことがある。日本でエイジングといえば、少子高齢化が話題になるが、アフリカではHIVの問題であり、人口問題は食糧問題になることがショックだった。また、「移動」についても日本では高齢ドライバーの免許返上や福祉交通が話題になるが、海外では国境問題であり、移民や難民の問題になる。

ところ変わればそこに暮らす人も変わるが、ものごとは常に多角的な視点、複眼で見えていかないと本当のことを知ることができない。私たちが取り組んできた介護旅行システムの構築過程を視察していったのも、そうした複眼思考から日本社会を捉え、自国のサービスを速やかにつくりあげようという意気込みなのだろう。

台湾のメンバーにHCRの印象を聞くと「日本の高齢者は幸せだ」という声が返ってきた。介護になっても安心して暮らすことができる制度があり、優れた先端技術の活かされた福祉機器に囲まれ豊かで羨ましいというのだ。国も違い社会的な背景も大きく異なるが、観光のクールジャパンは、そうした違いを知り認め合うことから始まる。日本を学びに来た彼らが案外、われわれより先にこのシステムを仕上げてしまうかもしれないと感じた。



しのづか・きょういち ●91年にSPIを設立し、現職就任。95年トラベルヘルパー(外出支援専門員)の養成開始、介護旅行事業に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー協会を設立し理事長に就く。